

令和7年度
シラバス

教科・科目	保健体育・保健	単位数	1
-------	---------	-----	---

学年・クラス	2 学年（必修・選択）	担当者	金澤 駿吾
使用教科書	大修館 現代高等保健体育		
使用副教材	なし		

目 標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。

授業の内容・進め方

授業の内容：健康安全について知識・理解を深め、毎時間のレポートをまとめやグループワークでの意見を交換することなどを通して健康課題について考えていきます。
 考查：前期末・後期末考查の2回を予定しています。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考查（年2回：前・後期末考查）	◎	○	△
	発言や提出など授業への参加の様子（適宜）	◎	◎	○
	毎時レポート	◎	◎	◎

・観点別評価 3つの観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。

A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する

・評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

指導計画及び中単元別評価基準

学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
前 期	4	生涯を通じる健康	ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の 選択	※各内容で下記について 理解したことを言ったり 書いたりしている。 ・思春期における発達や 性的成熟に伴う身体面、 心理面、行動面などの変 化と健康課題について。 ・思春期の心身の変化に 対応する理解。態度が必 要であること、及び情報 等への適切な対処が必要 であることについて。	・生涯の各段階における 健康について、健康に関 わる原則や概念を基に整 理したり、個人及び社会 生活と関連付けたりし て、自他や社会の課題を 発見している。 ・思春期と健康につい て、習得した知識を基 に、心身の発達や性的成 熟に伴う健康課題を解決 するために、性に関わる 情報を適切に整理してい る。	・生涯の各段階にお ける健康につい て、課題の解決に 向けた学習に主体 的に取り組もうと している。
	5		妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠 中絶 結婚生活と健康	・心身の発達や健康の保 持増進の観点から結婚生 活について。 ・受精、妊娠、出産に伴 う健康課題について。 ・家族計画の意義や人工 妊娠中絶の心身への影響 などについて。 ・健康的な結婚生活をに 過ごすために必要なこ とについて。	・結婚生活と健康につい て、習得した知識を基 に、結婚生活に伴う健康 課題の解決や生活の質 の向上に向けて、保健・医 療サービスの活用方法を 整理している。 ・加齢と健康について、 習得した知識を基に、中 高年期の疾病や事故のリ スク軽減のための個人の 取組と社会的対策を評価 している。	
	6		中高年期と健康	・中高年期を健やかに過 ごすための自己管理と交 流について。 ・高齢期には、加齢に伴 う変化と個人差があるこ と、疾病や事故のリスク、健康 の回復が長期化する傾向 にあることについて。 ・高齢社会では、保健・医 療・福祉の連携と総合的な 対策が必要であること について。	・生涯の各段階における 健康について、自他や社 会の課題の解決方法と、 それを選択した理由など を話し合ったり、ノート などに記述したりして、 筋道を立てて説明してい る。	
	7		働くことと健康 労働災害と健康	・労働災害は、作業形態 や作業環境の変化に伴 い質や量が変化してきた ことについて。 ・労働災害を防止には、 健康管理と安全管理が必 要であることについて。	・労働と健康について、 個人及び社会生活と関連 付けたりして、課題を発 見している。 ・働く人の健康の保持増 進について、習得した知 識を基に、生活の質の向 上を図ることと関連付け て、課題解決の方法に応 用している。	
		8	健康的な職業生活	・働く人の健康の保持増 進は、職場の健康管理や 安全管理とともに、心身 両面にわたる総合的、積 極的な対策の推進が図ら れることで成り立つこと について。 ・積極的に余暇を活用す るなどして生活の質の向 上を図ることなどで健康 の保持増進を図っていく ことが重要であること について。	・労働災害の防止に向 けて対策を整理している。 ・労働と健康について、 自他や社会の課題の解決 方法と、それを選択した 理由などを話し合っ たり、ノートなどに記述 したりして、筋道を立て て説明している。	
	9	前期期末考査				

学 期	月	単 元	学 習 内 容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
後 期	10	健康を支える環 境づくり	大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚 染と健康	・人間の生活や産業活動は、 大気汚染、水質汚濁、土壌汚 染などの自然環境汚染を引 き起こし、健康に影響を及ぼ したり被害をもたらしたり することがあるということ について。	・環境と健康について、 健康に関わる原則や概念 を基に整理したり、個人 及び社会生活と関連付け たりして、自他や社会の 課題を発見している。 ・人間の生活や産業活動 などによって引き起こさ れる自然環境汚染につい て、事例を通して整理し、 疾病等のリスクを軽減す るために、環境汚染の防 止や改善の方策に応用し ている。 ・環境と健康について、 自他や社会の課題の解決 方法と、それを選択した 理由などを話し合ったり、 ノートなどに記述し たりして、筋道を立てて 説明している。	・環境と健康につ いて、課題の解決 に向けた学習に主 体的に取り組もう としている。
	環境と健康にかか わる対策		・健康への影響や被害を防 止するためには、汚染物質 の排出をできるだけ抑制し たり、排出された汚染物質 を適切に処理したりするこ тоなどが必要であることに ついて。 ・健康への影響や被害を防 止するために環境基本法な どの法律等が制定されてお り、環境基準の設定、排出 物の規制、監視体制の整備 などの総合的・計画的対策 が講じられていることにつ いて。			
	ごみの処理と上下 水道の整備		・上下水道の整備、ごみやし 尿などの廃棄物を適切に処 理する等の環境衛生活動は、 自然環境や学校・地域などの 社会生活における環境、及び 人々の健康を守るために行 われていることについて。			
	11		食品の安全性	・人々の健康を支えるため には、食品の安全性を確保 することが重要であり、食 品の安全性が損なわれる と、健康に深刻な被害をも たらすことがあり、食品の 安全性を確保することは健 康の保持増進にとって重要 であることについて。	・食品と健康について、 健康に関わる原則や概念 を基に整理したり、個人 及び社会生活と関連付け たりして、自他や社会の 課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛 生に関わる活動につい て、習得した知識を自他 の日常生活に適用して、 健康被害の防止と健康を 保持増進するための計画 を立てている。 ・食品と健康について、 自他や社会の課題の解決 方法と、それを選択した 理由などを話し合ったり、 ノートなどに記述し たりして、筋道を立てて 説明している。	・食品と健康につ いて、課題の解決 に向けた学習に主 体的に取り組もう としている。
			食品衛生にかかわ る活動	・食品の安全性を確保する ために、食品衛生法などの 法律等が制定されており、 様々な基準に基づいて食品 衛生活動が行われているこ とや、食品の製造・加工・ 保存・流通など、各段階で の適切な管理が重要である ことについて。 ・食品衛生に関わる健康被 害の防止と健康の保持増進 には、適切に情報を公開、 活用するなど行政・生産 者・製造者・消費者などが 互いに関係を保ちながら、 それぞれの役割を果たすこ とが重要であることにつ いて。		

1	2	保健サービスとその活用	・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて。	・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、知識の整理・課題の発見をしている。 ・医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
		医療サービスとその活用	・健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて。		
		医薬品の制度とその活用	・医薬品の安全性の保守について。 ・医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて。		
		さまざまな保健活動や社会的対策	・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて。	・様々な保健活動や社会的対策について、知識の整理・課題の発見をしている。 ・地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、課題解決に応用している。 ・様々な保健活動や社会的対策について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、記述したりして、筋道を立てて説明している。	・様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	3	健康に関する環境づくりと社会参加	・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて。 ・一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながるについて。	・健康に関する環境づくりと社会参加について、知識の整理・課題の発見をしている。 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。 ・健康に関する環境づくりと社会参加について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	・健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
後期期末考査					